

看護部通信

2005.3.1 発行 第6号

2005年年頭にあたり「他の人からの多くの教えを受けて、そして感謝し、ほんの少し他の人に影響を与える。そしてお互いが豊かになれたら素晴らしい」と思いました。

私たちは一人では生きられません。多くの人（患者様や自分の家族、友人、職場の同僚、上司、先輩、後輩、他部門の人、他職種の人など）の教えを受け、支えられ、育まれ、今があるのだと思います。

わからないことは、恥ずかしいことではありません。どんどん他の人から聞き、他の人の経験から学ぶ姿勢が大切です。そして、教え・支えられているばかりではなく、反対に教え・支え、他の人の育みに影響を与えていくことも大切です。その際、自分なりに説明するのではなく、相手が何を知りたいのか、相手よりの方法で伝えていく努力をしていくことで、お互いが共に成長していけるのだと思います。

医療の世界は専門職員の集まりで、チームで連携しながら、患者様のよりよい医療、看護を目指しています。大変複雑な人間関係の中で、多くの人間と関わる仕事です。しかし、医療を受ける側もする側も人間です。コミュニケーションを上手にとりあい、進めていくことが必要です。コミュニケーションの根底に必要なことは、自己を信頼し、他者を信頼することです。つまり、一人一人が自己をみつめ、他者との関係の中で、謙虚な姿勢で臨み、学び合うことだと思います。そんな豊かな関係が築けることを願います。

（看護部長 岡山ミサ子）

☆医療機能評価を終えて☆

病院機能評価においては、皆様には沢山の努力と準備、粘り強い看護実践をしていただきありがとうございました。一人一人が役割をもって取り組んでいただき、大変感謝しております。病院機能評価は新生会第一病院が対象でしたが、十全クリニック・金山クリニック・鳴海クリニック・東海クリニック・東海知多クリニックの皆様にも沢山ご支援をいただきました。本当にありがとうございました。

私たちの日頃の看護実践を第三者に評価していただくことができ、良い機会を得たと思っています。看護部としての課題や改善点はまだまだありますが、皆様の看護実践や看護部の取り組みはおおむね良好な評価をされたと認識しております。今回を機にスタートラインに立ったつもりで、今後も皆様の意見を取り入れながら、よりよい看護部にしていきたいと考えております。今後ともよろしくお願い致します。

（看護部長 岡山ミサ子）

看護部業務委員会

※短時間でしたが、みんなで力を合わせて、目標に向かって頑張れたことは、素晴らしいことでした。これからは「継続は力」です。コツコツと地道に記録し、業務基準・手順を作り上げていきましょう！
【業務委員長：金山CL 江崎】

※委員及び各部署の各スタッフが一丸となって、主体的に基準作成に取り組む姿勢が短時間で完成に漕ぎつけたと感動しています。力強いスタッフの皆様ご苦労様でした。実践を文字化することは、今後の看護の質改善に繋がり、実践に即して追加・修正する運用体制を構築して継続していけたらと考えます。

【業務副委員長：基準手順担当 十全CL 牛崎】

看護基準・手順委員会

※看護基準作成が私の課題だったので、活動に力が入った。現場で有効に活用できるようにしたい。
【病棟：洲崎】

※看護基準の作成は大変でしたが、スタッフの役に立っているので良かったです。
【鳴海CL：三輪】

※忙しい業務の中、短い時間の中で基準・手順を作成するにあたり、スタッフの協力はとても大ききなものでした。「手伝いますよ」の一言に救われたことも・・・
【外来：佐久間】

※インターネットに参考書・・・新人ナースも巻き込んで看護基準作成に奮闘。おにぎり片手に頑張りました。
【金山CL：平嶋】

※今回のことで、はじめてこんなに長い時間パソコンの前に座っていました。【病棟：北村】

※スタッフが自己の看護を考えられ、臨床の場で活用できる体制作りと経験が活かせるマニュアルを作成したい。
【浄化C：渡邊】

※“看護基準”?でしたが、やり終えてよい学習となり、やれたという達成感がありました。
【鳴海CL：和田】

※改めて基礎を学ぶよいチャンスだったと思います。今後は問題点のネーミングとプランの見直しが必要だと思ひます。
【東海CL：横内】

※スタッフ一人一人の学習の機会になった。今後も患者さまの個別性を見出した看護基準を作成していく必要 があります。
【十全CL：緒方】

※看護基準・手順を途方もない作業だと感じていましたが、形ができあがるにつれ、喜びに変わっていきました。タイムリミットに間に合い、企画運営の大切さを学びました。今後は『臨床にマッチしやすい基準・手順』を目標に進めていけたらと思ひます。

【教育C：西谷】



看護記録委員会

※みんなで力を合わせることのすばらしさを体験できた。来期は、現場に根付かせることと細部の検討が課題だと思う。
【看護記録委員会委員長：東海CL 内田】

※看護記録の基盤ができて、これからがスタートです。次年度は記録し活用できるように浸透させていきたいと思います。
【外来：佐々木】

※看護記録がマニュアルになって記録物の整理ができたと思います。また、監査を行なうことは看護の質の向上に繋がると思います。
【病棟：松田】

※苦手な看護記録を勉強する機会となりました。来年度は、記録評価までできるように頑張ります。
【外来：戸村】

※記録監査表・チェックリストを作成したが、今後も継続できるようにしていきたい。
【浄化C：佐藤真子】

※スタッフの声を聞きながら看護の見える記録になるよう検討していきたいと思います。
【鳴海CL：笹井】

※マニュアル作成で記録が統一され新人教育が行ないやすくなった。今後は退院サマリーの簡素化を検討していきたい。
【病棟：今福】

※委員会に参加して、記録の再認識ができました。また、期日内に終わるように協力しました。来期は「学ぶ」姿勢を持ちたい。
【東海CL：片岡】

※今後は監査を行い部署の記録を充実させると共に透析部門で統一できていないものを統一できればと思います。
【十全CL：立松】

※記録委員一丸となってマニュアルを完成することができうれしく思います。おでん、ごちそうさまでした。
【金山CL：山内】

